

再評価結果（平成26年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課

担当課長名：茅野 牧夫

事業名 京奈和自動車道 一般国道24号 大和御所道路	事業区分 一般国道	事業主体 国土交通省 近畿地方整備局			
起終点 自：奈良県大和郡山市伊豆七条町 至：奈良県五條市居傳町	延長 27.2km				
事業概要 京奈和自動車道は、京都市を起点とし、奈良市を經由して和歌山市に至る高規格幹線道路である。 大和御所道路は、京奈和自動車道の一部を構成し、広域的な都市圏の活性化、一般国道24号の交通混雑の緩和及び交通安全の確保及び生活圏・活動圏の拡大による地域の活性化を図ること等を目的とした高規格幹線道路である。					
S47年度事業化（橿原バイパス） H4年度事業化（大和御所道路）	S48年度都市計画決定 （橿原バイパス） （H3年度変更） （大和御所道路（御所区間）） （H8年度変更） （大和御所道路（大和区間））	S50年度用地着手 （橿原バイパス） H4年度用地着手 （大和御所道路）			
S53年度工事着手（橿原バイパス） H6年度工事着手（大和御所道路）					
全体事業費 4,600億円 事業進捗率 約76% 供用済延長 11.5km					
計画交通量 39,600台/日					
費用対効果分析結果	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;"> B/C （事業全体） 1.2 （残事業） 4.8 </td> <td style="text-align: center;"> 総費用：（残事業）/（事業全体） 842/5,918億円 （事業費：745/5,749億円） （維持管理費：98/170億円） </td> <td style="text-align: center;"> 総便益：（残事業）/（事業全体） 4,033/6,914億円 （走行時間短縮便益：3,439/5,984億円） （走行経費減少便益：407/646億円） （交通事故減少便益：187/284億円） </td> </tr> </table>	B/C （事業全体） 1.2 （残事業） 4.8	総費用 ：（残事業）/（事業全体） 842/5,918億円 （事業費：745/5,749億円） （維持管理費：98/170億円）	総便益 ：（残事業）/（事業全体） 4,033/6,914億円 （走行時間短縮便益：3,439/5,984億円） （走行経費減少便益：407/646億円） （交通事故減少便益：187/284億円）	基準年 平成25年
B/C （事業全体） 1.2 （残事業） 4.8	総費用 ：（残事業）/（事業全体） 842/5,918億円 （事業費：745/5,749億円） （維持管理費：98/170億円）	総便益 ：（残事業）/（事業全体） 4,033/6,914億円 （走行時間短縮便益：3,439/5,984億円） （走行経費減少便益：407/646億円） （交通事故減少便益：187/284億円）			
感度分析の結果 【事業全体】 交通量：B/C=1.0~1.4（交通量 ±10%） 事業費：B/C=1.2~1.2（事業費 ±10%） 事業期間：B/C=1.1~1.3（事業期間±20%） 【残事業】 交通量：B/C=4.0~5.6（交通量 ±10%） 事業費：B/C=4.4~5.3（事業費 ±10%） 事業期間：B/C=4.6~4.9（事業期間±20%）					
事業の効果等					
①交通混雑の緩和 ・一般国道24号の交通量は交通容量を大幅に超過しているが、整備により交通混雑の緩和が期待できる。 一般国道24号（東室交差点～大和高田市・葛城市 境）、混雑時の上下平均旅行速度15.9km（H22） →交通量減少により改善が見込まれる。					
②交通安全の確保 ・部分開通により並行区間では死傷事故件数が減少しており、交通事故の減少が期待できる。 一般国道24号 大和高田市曾大根（1,099件/億台キロ）→交通量の減少が見込まれる。					
③災害時の代替路確保 ・南海トラフ巨大地震が発生した場合、京奈和自動車道は主要な救援ルートとして期待される。					
④生活圏・活動圏拡大による沿線地域の活性化 ・京奈和自動車道沿線に工場が立地しており、今後のさらなる利便性向上、地域活性化が期待される。 奈良市～五條市への所要時間短縮。（92分→45分） 大和郡山市～五條市への所要時間短縮。（90分→42分）					
⑤高度医療施設へのアクセス向上 ・奈良県は病院搬送に要する時間が全国平均よりも長く、京奈和自動車道の早期整備が期待される。 五條市～奈良県立医科大学附属病院高度救命救急センター（橿原市）への所要時間が短縮。 （38分→18分）					
⑥主要観光地へのアクセス向上 ・沿線へのアクセス性向上により観光客の増加が見込まれる。 橿原市（藤原宮跡・今井町・橿原神宮他）年間観光客入込数：約398万人/年（H24年） 吉野山 年間観光客入込数：約78万人/年（H24年）					
⑦新幹線駅へのアクセス向上 ・五條市～京都駅への所要時間が短縮。（142分→95分）					

⑧空港へのアクセス向上
・御所市～関西国際空港への所要時間が短縮。(98分→91分)

⑨重要港湾へのアクセス向上
・御所市～下津港への所要時間が短縮。(105分→97分)

関係する地方公共団体等の意見

地域から頂いた主な意見：

京奈和自動車道建設促進奈良県民会議（H6.7設立、奈良県内各層を代表する70団体で構成）総会等にて早期整備の要望を受けている。

奈良県知事の意見：

京奈和自動車道は、県の南北の基軸であり、企業立地や計画的なまちづくりの促進、広域的な観光振興をはじめ商業・産業の活性化、医療提供体制の広域化等に寄与する極めて重要な道路と考えています。

特に大和御所道路は、国道168号や国道169号、国道309号等の幹線道路とネットワークを形成し、南部地域の振興を図る上で必要不可欠な道路であり、災害時には、被災地域の孤立や物資輸送・救急活動ルートの分断を防ぐ「紀伊半島アンカールート」の一翼を担う道路でもあります。

また、現国道24号の慢性的な渋滞の緩和や事故危険箇所の解消、生活道路への交通流入の改善のため大和御所道路の早期完成が求められています。

以上のことから、対応方針（原案）のとおり、事業継続が妥当と考えます。

引き続き事業を推進し、（仮称）大和郡山ジャンクションの平成26年度早期の供用、御所インターチェンジから御所南インターチェンジまでの平成26年度の確実な供用、五條北インターチェンジまでの平成28年度の供用の実現、橿原北インターチェンジから橿原高田インターチェンジまでの早期の工事着手をお願いします。

なお、整備にあたってはコスト縮減に努め、全線供用に向けた計画的な整備が図られるようお願いいたします。

事業評価監視委員会の意見

審議の結果、「一般国道24号大和御所道路」の再評価は、当委員会に提出された資料、説明の範囲において、おおむね適切に進められており、対応方針（原案）のとおり「事業継続」でよいと判断される。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

一般国道24号の交通量は依然として交通容量を大幅に超過している。

東日本大震災が発生した際に、迂回路が経済活動や復旧復興を支援していることから、災害時の代替路確保として、京奈和自動車道が新たな救援ルートとして期待されている。

産業では京奈和自動車道沿線での企業立地が進んでおり、近年では増加傾向となっている。

京奈和自動車道の整備によって、救急医療サービスの向上が期待されている。

事業の進捗状況、残事業の内容等

現在までに、専用部では大和区間（郡山南IC～橿原北IC）7.8km、御所区間（橿原高田IC～御所IC）3.7kmを開通済み、一般部では大和区間の9.2km（うち3.6kmは暫定2車線）開通済み、用地進捗率：約97%、事業進捗率：約76%。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

残る区間のうち一般部3.5km（大和区間）については、平成25年度尾開通予定、専用部2.5km（御所ICから御所南I）については、平成26年度暫定2車線開通予定。その他の区間については、引き続き事業を推進し、早期の開通を目指す。

施設の構造や工法の変更等

事業実施にあたり、新技術・新工法の活用等によりコスト縮減に努める。

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

再評価結果(平成26年度事業継続箇所)

担当課：道路局 国道・防災課

担当課長名：茅野 牧夫

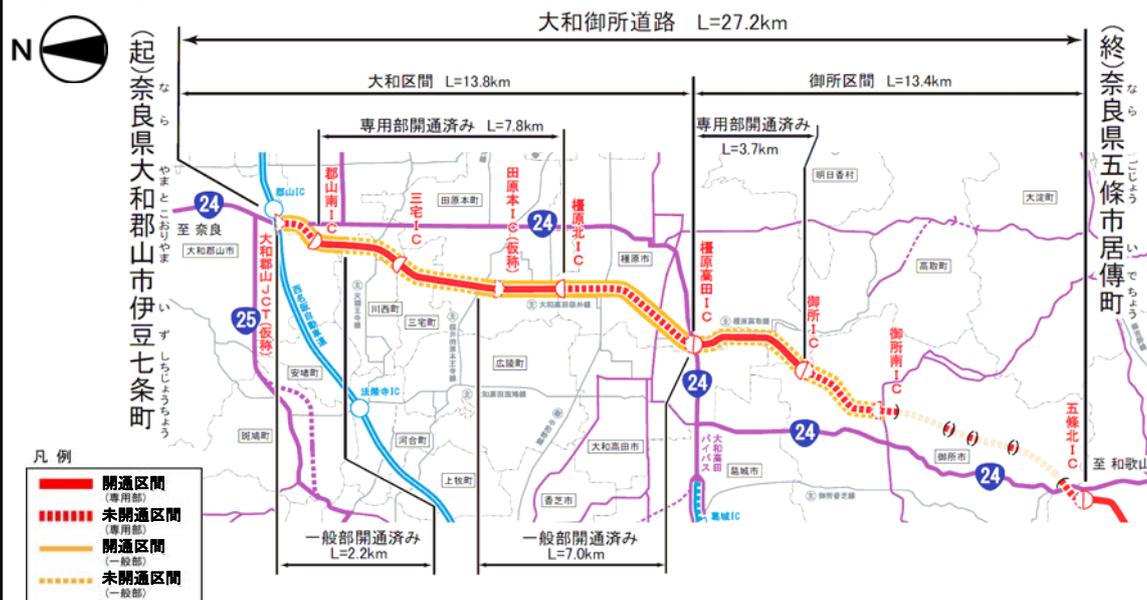
事業名 京奈和自動車道 一般国道24号 大和御所道路 (やまとごせ やまとごおりやま いすしちじょうちよう)	事業区分 一般国道	事業主体 国土交通省 近畿地方整備局
起終点 自：奈良県大和郡山市伊豆七条町 (やまとごおりやま いすしちじょうちよう) 至：奈良県五條市居傳町 (ごじょう いでちよう)	延長 27.2km	

事業概要図

【位置図】



【概要図】



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
 ※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。